

2023年の路線価が発表されました。

国税庁が3日発表した2023年分の路線価（1月1日時点）で、県内最高の高知市帯屋町1の帯屋町商店街は、前年に続いて横ばいで1平方メートルあたり21万円だった。最高路線価はピーク時の1992年（248万円）の8.5%にとどまり、1970年の水準としている。

街中で空き店舗が見られるなど、新型コロナウイルスの影響から抜け出してはいないが、全体的に下落基調は抑えられ、県内6税務署管内の最高路線価はいずれも横ばいに。行動制限がなくなり県外や海外からの観光客が増えるなど、社会経済活動が活発になったことが背景にあるとみられる。県庁所在地ごとの最高価格では全国37位。松山市は21位（67万円）、高松市は26位（36万円）、徳島市は30位（29万円）だった。

路線価は相続税や贈与税の算定基準となる。また土地の広さや形などが標準的な場所を抜き出した「標準宅地」（1903地点）の評価基準額の平均変動率は、前年比マイナス0.3%で28年連続の下落となったが、下落幅は前年から0.1ポイント縮小した。

（参照：2023年7月4日読売新聞）

●まとめ

上記の通り、高知市中心部の帯屋町は昨年と比べて横ばいとなりました。経済活動が活発化する反面、原油価格や物価上昇により、今後も不透明な状況が続くと予測されます。路線価の変動によって不動産の価値に変化が生じる場合があります。ご自身が所有されている不動産の価値を知っておくことも必要です。あなぶき不動産流通では不動産の査定・ご相談を無料で承っております。お気軽にお問合せください。